

実施日：7月10日（5校時）	
領 域：道徳	
取組名：「最高学年としての姿」	
対 象：6年生	実施場所：6年1組教室
ア ねらい 最高学年としての役割を考え、他の学年が自分たちをどう見ているかを知り、良いところをさらに伸ばそうという気持ちをもって学校生活を送る。	
イ 指導内容（指導略案）や取組の概要 1. 卒業した今までの6年生の「かっこいいな・すごいな」と思った姿を思い出す。 2. 資料「仲良し活動」（平成24年度版：兵庫県教育委員会）を読む。 ① やる気の出ない弘希の気持ちを想像する。 ② 先生の問いかけに笑顔で答えた弘希の気持ちの変化を考える。 3. 「最高学年の姿アンケート結果」[別紙①]を読み、感じたことをグループで交流する。 4. 1年生からの手紙を読み、本時の感想を書く。	
ウ 連携先：児童養護施設	
エ 連携にむけての取組 本校教員と施設職員は様々な形で連携をしている。4月は施設を訪問し、児童の昨年度までの様子について情報交換を行った。担任と施設職員は1学期の児童の様子を観察し、7月に課題把握リストをつけた。そして、毎月チェックしていく項目を決め、個人票を作成した。個別懇談会ではこれからどのような観点で児童を見ていくかについて話し合った。 夏休みには、学校と2つの施設職員による合同研修を行い、施設間の違いや特色について話し合った。立場が違っても、児童を見守り育てていくためには、これからも連携を密にすることが大切であるとよいことを確認した。 その中で、児童の自尊心を高めるための取組の一環としてこの学習を行った。授業前に施設の担当者に趣旨説明をし、授業後、授業での施設の子供たち及び全体の子供たちの様子を伝えた。またその後、施設でも授業について児童と話し合う機会を作ってもらい、児童の思いを受け止め前向きに進んでいけるよう励ましてもらうようにした。 今回の取組を含め、2年間の実践報告を小学校の人権教育研究会で発表し、児童養護施設から通う児童が在籍する他校を含め、全市に広められるようにした。	
オ 組織的な取組とその点検・評価を行ううえでの工夫点 事前に全クラスに「6年生のかっこいい姿とは？」というアンケートを取り、また職員が書いた「もう少しがんばるとよいこと」についてのアドバイスを集約してプリント[別紙①]にまとめた。まとめた内容を児童に返し、6年生に向けられた思いを受け取れるようにした。また、ペア学年の1年生には6年生に向けて手紙を書いてもらうよう事前に依頼しておいた。学校全体が6年生のことをどう見ているのかが伝わるように組織的に取り組むことができた。	
カ 評価の方法 グループでの話し合いの様子と感想文[別紙②]をもとに評価を行った。目標に達していない児童には、意図的に励ましの声かけを行い、最高学年としての自覚が芽生えるように支援した。	
キ 成果 全クラスからのアンケート結果から、自分が思っている以上に全校生から認められていることに気付くことができ、自尊感情が高まった。また、自分では当たり前と思っている行動が他の学年には「すごい」「かっこいい」と映っていることから、責任と自覚が生まれた。感想文[別紙②]からは、教員からのアドバイスも素直に受け入れ、よりよい姿をめざそうとする前向きな気持ちがうかがえた。施設から通う児童	

も「見本となるような行動をとりたい」と前向きな感想を述べた。施設でも6年生としてがんばろうとする姿がみられるようになったことを施設の担当者から聞いている。

ク 課題

この授業で生まれた責任感や最高学年としての自覚を継続させていくためには、さらなる励ましの声かけが必要になる。また、様々な場面で全校生から認められる機会を意図的に作っていく必要がある。